

ピアホームだより

2020. 12.10

アドボケイト会主催の症例検討会（続き）

課題3）困った症状への対処

事例）10年にわたり、同じ質問を繰り返すので、皆、閉口してしまうが？

＜白石医師からのアドバイス＞

コミュニケーションの取れないような重篤な方でも、響き合い（日教組の発表会から得た一つの考え方）がある。わずかな反応を意味のある人間の交流とする立場である。年中同じことを聞いてくることについては、直接の希望に応える一本人の望む

「はい」と言う返事をするのでいいのではないか…。

いずれにしても、支援の人の関わりが大事、何があっても会話を続ける、変わるかもしれないというスタンス、関係を悪くしない、諦めず、見守ることが大事と思われる。

韓流映画に思う

TVの情報番組で知って、「愛の不時着」を観てから、韓流映画に嵌り見続けています。きっかけが「愛の不時着」でしたので、その後も南北分断の悲劇と統一の思いと言うものを追い、…「シークレットミッション」—北の工作員が祖国北への忠誠と疑念、それでも南には寝返らない複雑な心情を描く？、「鋼鉄の雨」—東西対立の狭間で蠢く政治的謀略を描く高度な国際政治映画？—等です。

評価の高い作品を探し、「サイコだけど大丈夫」という映画にも出会いました。

舞台は精神病院。主人公は看護師の男とサイコ？のエリートの女流児童文学作家—というユニークな設定で、精神病の世界も少し描かれていて、私には専門的興味も湧く映画でした。

新しい所では「梨泰院クラブ」を観ている途中です。—韓国社会の急速に形成された成り上がり財閥の強者の価値観に対する根深い反感、それに屈せず、人との深く温かい繋がりで成功を勝ち取る若者の物語のようです。

韓国社会では南北分断の深い傷跡があり、多くの市民が同胞の融和を望んでいる。急速な産業発展の中で、大きな格差が生じている。

後進資本主義国が必死で追いつこうとして、国内に我慢を強い、国際競争に勝つ—日本においても同じ構造がみられますが、そんな社会現象を鋭く描いているものと思います。

ピアホーム新規入居者

昨年末は卒業生が続出、その後、新型コロナもあって新しい入居者を決めるのに、時間がかかる状態が続いていました。

今年に入って、Yさんが救護施設に転所になり、9月には、30代後半の男性Mさんが、10月後半には60歳を過ぎたばかりのKさんが相次いで入居になり、雰囲気も一変しています。

Mさんはおじいちゃん子だったようで？古い映画の知識や昔のスポーツ（野球・プロレス）の名選手のお話も得意！今はチャンバラに夢中というユニークな方です。

Kさんは、料理人などを長くやって来た方、料理の知識はもちろん、多趣味で色んな知識を披歴して頂き、驚かされています。

いずれにしても、当所の向かう所は、皆で助け合い、楽しく仲良く過ごして行くことです。

12月の予定

12月8日～：下水工事